

# 野底福島トンネル工事新聞

JV OKAYA-ASAKAWA JV

No.3

## 20mほど掘削を行いました

野底福島トンネル工事では現在20mほどトンネル掘削を行いました。まだ本格的な掘削ではありませんが、徐々に掘削を進めています。

トンネルを掘る部分の地山（地質）は六道原礫層や砂礫層といった、今から12万6000年前から1万1700年前までの「後期更新世」に三峰川によって運ばれ堆積した、砂や礫（小石）、玉石により形成された段丘堆積物です。

その段丘堆積物を天竜川の流が削り取り現在の地形になったようです。トンネルの上には遺跡が幾つもあります。当時は天竜川がもっと近くを流れていたと思われます。

ちなみにナウマンゾウは40万年前から2万年前まで暮らしていたそうなので、この地層を歩いていたかもしれませんし、縄文時代は約1万5,000年前から約2,300年前とのことなのでこの地層が形成された頃にはもう人が暮らしていたのかもしれません。



バイパス予定位置とトンネル施工区間

## 地山を補強しながら掘削しています

掘削を始めてから今日までのところ地山は非常に崩れやすい状態です。そのため地山を補強しながら掘削を行っています。トンネル掘削時に地山を固める方法は「トンネル補助工法」と呼ばれています。「トンネル補助工法」のうち野底福島トンネルで実施しているのは「注入式長尺先受け工法」（AGF工法）と「注入式長尺鏡補強工」です。

「注入式長尺先受け工法」はトンネルに屋根をかけるように、ガードレールの支柱くらいの太さの鋼管を12mほどトンネルの天端（上部）に30本ほど打ち込みます。鋼管には穴が空いていて、その管の中から注入材を地山に注入して周りの地山を固めます。これによってトンネルの上側が崩れにくくなります。



トンネル補助工法

また、「注入式長尺鏡補強工」は同様にトンネルの前面（切羽といいます）を鋼管と注入材で固めて崩れにくくします。この鋼管にはトンネルを掘る際に、1mごと折れるようにスリットが入っています。

## 県道沿いに掲示板を設置しました

県道の歩道部分に工事の内容や現在の進捗状況のわかる掲示板を設置しました。お近くをお通りの際にはぜひご覧ください。

また、隣接する現場事務所や当企業体の職員に声を掛けてくだされば、随時工事の説明をさせていただきます。

お時間がある際にはぜひお声掛け下さい。

岡谷組・浅川建設工業特定建設工事共同企業体  
〒396-0001 長野県伊那市福島586-7  
電話 0265-96-0371 FAX 0265-96-0372  
(担当：小口・小池・浅野・府後)

